

令和六年度 入学試験問題 第一日

国語総合・現代文B

第1問 次の文章を読んで、後の問（問一～問七）に答えよ。

イギリスで産業革命が起こった一八世紀から二〇〇年さかのほった一六世紀半ばに、当時ヨーロッパで最も先進的であったスペイン人と、当時アメリカ大陸で高度な文明を構築していたインカ帝国の人々は初めて出会うことになる。スペイン人征服者ピサロとインカ皇帝アタワルパが、一五三二年に現在のペルー北部で戦った。インカ帝国も政治・文化的に精緻な社会を構築していたのであるが、スペイン人側は銃や金属製の剣、馬などの家畜を持っていたのに対して、インカ側は持っていなかったことが、この戦闘がスペイン人側の一方的な勝利に終わったことの原因とされている。そしてスペイン人たちはこれらの武器や家畜に加え、意図せずして天然痘ウイルスまで持ち込んでいた。そして天然痘もまたインカの人々の命を奪っていく。

地理学者・歴史学者として知られるジャレド・ダイアモンドは、一六世紀までの間にヨーロッパとアメリカ大陸の間にこれほどの技術格差が生じたのは、ヨーロッパの位置するユーラシア大陸と南北アメリカ大陸の間の^ア地理的な違いが大きく寄与していたと主張する。その違いとは、ユーラシア大陸が東西に展開した形状をしているのに対して、南北アメリカ大陸は南北に展開した形状をしていることである。東西に広がった大陸は、同じ気候帯がつながっているのので、大陸のどこかで発生した植物や動物（微生物も含む）の新品種が伝播^{でんぱ}しやすい。これに対して南北に伸びた大陸では、どこかで発生した新品種が伝播するためには、異なる気候帯の地域間の移動を生き延びなければならぬ。これは新品種の技術移転にとっては大変不利な地理条件である。この有利さを活かし、ユーラシア大陸では動植物の新品種が広まりやす

く、それらを用いた加工品として製造業も発展してくる。多様な動植物は多種の微生物を伴う。そして新たな微生物が引き起こす感染症にも免疫が形成される。一方のアメリカ大陸においては、動植物の品種が少なく、家畜を飼う習慣も限定的で、病原体にさらされる機会も少ない。つまり一六世紀にヨーロッパ人とアメリカ先住民が出会ったときまでに、地理的・歴史的要因によって、技術や家畜（そして病原体）の **A** 性に大きな格差がついていたというわけである。

このように一六世紀の大陸間の大きな技術格差は、自然環境や歴史・文化の展開によって形成されていた。つまり社会や経済全体の技術革新能力によって技術水準が決まっていた。人々が、自ら能動的に技術革新を行うようになるのは、一八世紀の産業革命からである。

産業革命による一連の技術革新を目的にしたオーストリアの経済学者シュンペーターは、産業革命という技術革新の連続が、一八世紀以前とそれ以降の経済メカニズムを区別する大きな要因になったと洞察した。そして二〇世紀以降の技術革新の担い手として、高い能力を持った企業家に着目した。これは一六世紀のヨーロッパとアメリカ大陸の技術水準が、主に **X** と、大きな相違をなしている。

シュンペーターは進取の精神を有した企業家が、既存の財貨や組織、生産方法などを新たな組み合わせで結合すること（新結合）が技術革新であると見た。この「新結合」には資金が必要で、その資金を用立てることのできる企業家は、自らの才覚と資金を組み合わせることで、この独占企業の調達できる資本はより潤沢になっていき、これによって徐々に独占体制を固めていくことになるのであるが、この独占企業の調達できる資本はより潤沢になっていき、これを担う企業が元々有していた進取の精神や才覚と相まって、より技術革新能力を高めていく。

このようにシュンペーターは技術開発の能力を重視し、独占度を高めた産業界のリーダーは、高い企業家精神と資金力の観点から、技術革新の担い手となりやすいと考えた。

これに対して ^(注1) アローは、技術革新に取り組み動機に着目し、独占企業には同じ産業で技術革新を行う需要が弱いことを指摘した。例えばある産業ではほぼ独占状態にまで市場支配力を高めた企業は、自社の既存の商品を売り続ければ高

い利潤が得られるので、新商品を開発する動機がない。

自動車産業を例に取れば、ガソリンを燃料とする乗用車で市場支配力を高めた企業は、ガソリンを販売する会社とも協力してガソリン供給網を国中に張り巡らすと同時に、自動車の販売会社ネットワークも整備する。また一般消費者にとっては高額な自家用車の購入を促進するために、分割払いのための金融を行う仕組みも整える。このような体制を構築するために、多額の投資をする。

↑
そのような状況下では、この先発企業に電気自動車を開発する誘因は弱い。なぜならば、それまでガソリン自動車を生産するために長年蓄積してきた多くの知識や情報、そしてガソリン販売会社との連携体制などが電気自動車では不要だからである。そのうえ、電気自動車生産に関して品質、生産費用等の面で競争に打ち勝つには、新たな投資が必要となる。そのような新たな投資をして電気自動車生産に切り替えるよりも、これまで苦労して構築した「ガソリン車生産・消費・流通体制」を維持したい、と思うのが普通であろう。なぜならこれまで行ってきた設備投資、研究開発投資等からまだまだ得られると想定していた利益が、急に断たれることを意味するからである。このようにして失われる利益は遺失利益と呼ばれる。

これに対して新規参入企業には、失うものが何もない。ガソリン車生産・消費・流通体制に関わっていないから、それに投資もしないければ、それらから利益を得てもいい。むしろあるのは、先発企業を追い越そうという強い意欲である。このようにアローの観点から言えば、後発企業には技術革新による遺失利益がない分だけ、技術革新への動機が強い。これが、技術革新に取り組むうえでの、先発企業に対する後発企業の強みである。

実はシュンペーターも、技術革新によって既存の企業に遺失利益が生じる側面を強く意識していて、「技術革新とは創造的破壊だ」と指摘していた。技術革新は、新製品を生み出すという意味で「創造」と言えるが、その創造は多かれ少なかれ、既存の製品の価値を失わせる。例えば、デジタルカメラが普及したことによって、従来のフィルムを用いたカメラの販売額は大きく落ちた。またデジタルカメラを内蔵した携帯電話が普及したことで、今度はデジタルカメラの販売が減

少した。このようにしてデジタルカメラはフィルムカメラの価値を破壊し、カメラ付き携帯電話はデジタルカメラの価値を破壊したことが分かる。よく考えれば、ビデオテープやビデオカメラ、ビデオデッキの価値も破壊したことに気づかされる。

では先発企業と後発企業のどちらが技術革新に成功するのだろうか。その答えは、シユンペーター効果（技術革新能力の高さ）とアロー効果（技術革新誘因の強さ）の相対的な大きさによっている。B 的にどちらが強いと言えるものではなく、シユンペーター効果が勝れば先発企業がさらなる新製品を市場に出し、アロー効果が勝れば後発企業が先発企業を出し抜いて新製品の市場占有率を高めることになる。

アロー効果がシユンペーター効果に勝り、後発企業が先発企業を追い越すことをカエル跳び（またはリープフロッギング：leapfrogging）と呼ぶ。これはまさに後発のカエルが先発のカエルを跳び越す形で技術革新が進むことを示している。例えば二〇二〇年代、電気自動車^①が次世代の乗用車の主流と見なされつつある。それまでの自動車においてエンジンは、自動車技術の粋を集めたもので、エンジンの効率化、小型化、軽量化は、自動車の性能のかなりの部分を決定していた。その歴史の中でアメリカのフォード、ドイツのベンツ、フランスのプジョー、日本のトヨタ、日産、ホンダに代表される企業がより優れたエンジン開発にしのぎを削ってきたのである。

しかし電気自動車は、そのエンジンを無用にする新技術なのである。これまで自動車産業を牽引してきた上述のような企業は、エンジンの技術に関する多くの特許を有していることから、エンジンに^②体化された、これまでの彼らの技術開発投資を無にするような電気自動車への転換に躊躇^{ちゆうちよ}するのにも当然である。新技術の中でも水素自動車であれば、ガソリンの代わりに水素を燃やしてエンジンを動かすことになるので、既存のエンジンの技術が幾分でも利用可能である。しかし電気自動車は全くエンジンを使わないので、エンジンを用いた自動車の技術の価値を無にする創造的破壊なのである。

したがって、電気自動車の技術開発に対して積極的に投資を行う企業が、既存の自動車産業の外から現れるのは、アローの観点から見て自然なことであった。テスラという新しい会社が二〇〇三年、アメリカのテキサス州に設立され、

電気自動車生産のリーダーとなる。さらには異業種の情報通信産業からグーグルが、地図情報や自動運転などの面の

C性を活かして電気自動車産業に参入するようになる。テスラにもグーグルにも、ガソリン自動車という技術を破壊したところで失うものは何もない。

これに対して、既存の自動車製造企業であるトヨタ、日産、ホンダ等々も、これまで自動車生産で培ったシユンペーター的な供給能力の強みを活かして、電気自動車市場にも参入している。テスラやグーグルなどの新規参入企業が、既存の著名な自動車産業に打ち勝ってリープフロッグするのか、既存企業が巻き返すのか、興味深いところである。

カエル飛び型の技術進歩は、それぞれの国において支配的となる技術の選択に関しても生じている。例えば先発国がいずれかの技術を採用して、その技術に対して最も合理的な社会・生産基盤（インフラストラクチャ。インフラと略されることも多い）を構築したとしよう。その社会・生産インフラは、採用した技術に最も適合したものであり、一度建設されれば長期間、その技術を支えることができる。また、法制度もその技術やインフラと**D**的に構築され、制度インフラとしてその技術を支持することとなる。具体的に言えば、電話や電力に関し、先進国は電話線のネットワークや電力供給のネットワークを整備してきた。銀行や郵便局を通じた金融システムも構築し、それらのネットワークに漏れがないよう利用者の拡大に努めてきた。この技術基盤を前提に、ほぼすべての家庭には固定電話機があり、電気も発電所から供給されてきた。そして特に日本の場合には、電話料金や電力使用料は、ほぼすべての成人が持っている銀行口座から自動引き落としされる料金後払いシステムが普及した。

このようにして構築された社会・生産・制度インフラは、家庭に一台ではなく、一人が一台保有することを前提とした携帯電話という新技術には向いていなかった。なぜなら、携帯電話という新技術利用の牽引役であった若者世代には定期収入がないのが通例であり、銀行口座の開設や料金後払い制度には向かなかったからである。そこで日本では、親の銀行口座から子どもの携帯電話料金を引き落とす制度が発展した。

しかし日本以外の多くの国では「子どもの携帯電話使用料を、後払いで親が払う」というシステムは採用されなかつ

た。開発途上国では銀行口座を持たない成人が多いし、他の先進国では、若者であっても「自分の携帯電話料金は自分で払う」という主義のほうを採用されやすかったからである。

このように電話線ネットワークや銀行制度が先進国ほど整備されていない開発途上国では、携帯電話という新技術に直面して、それらのインフラを前提にしない利用方法が採用された。電話線ネットワークが不要なのは当然として、銀行口座を前提にしない携帯電話普及方法として、料金前払い制度が採用された。携帯電話機とSIMカード（一つの電話番号が登録されている）を購入し、前払い使用料金として数十円もチャージすれば、即座に電話が利用できる。テキストメッセージの送付はほぼ無料であるし、自分から電話をかけずに、相手から電話をかけさせるように努めれば、利用料金はかなり節約できる。^エこのような新しい制度インフラを構築することによって開発途上国は日本よりも高い携帯電話普及率を実現したのである。

やまがたつふみ
（山形辰史著『入門 開発経済学』に基づく）

（注） 1 アロー……アメリカ合衆国の経済学者。

2 体化……具体化、具現化の意。

問一 傍線部ア「地理的な違いが大きく寄与していた」とあるが、地理学者・歴史学者であるジャレド・ダイアモンドは、両大陸の地理的な違いがどのように技術格差に寄与していたと主張しているか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ア。

① ユーラシア大陸は東西に展開した形状であるため、当時のスペイン人は一つの文化体系しか有していなかったが、それが技術の向上につながり、武器などの開発に力を入れることで、インカ帝国に勝る軍事力を有するまでになった。

② 南北に長いというアメリカ大陸の利点をいかし、それぞれの地域で栄えた文明を融合させ、政治・文化的に成熟した社会を構築することに成功したインカ帝国であったが、多種多様な動植物を活用していたスペイン人にはすべての点において劣っていた。

③ 同じ気候帯が広がっているユーラシア大陸の特徴をいかし、農耕生活を充実させることに成功した当時のスペイン人は、当時のアメリカ先住民に勝る、ヨーロッパからアメリカ大陸までの移動も可能にするほどの身体的能力を有していた。

④ ユーラシア大陸は、動植物の新品種が広まりやすい地理条件を有していたため、家畜とともに過ごしていたことも相まって、当時のスペイン人は感染症の脅威にさらされることとなったが、その結果、感染症に対する免疫という強みを得た。

問二 空欄 A ～ D に入る最も適切な言葉を、次の①～⑥の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを繰り返し使用してはならない。解答欄は、イ・B・ウ・C・エ・D・オ。

- ① 優位 ② 先験 ③ 分配 ④ 多様 ⑤ 整合 ⑥ 価格

問三 空欄

X

 に入るものとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、

力

。

- ① 人々の能動的な技術開発能力で決定されていたこと
- ② 自然環境や歴史・文化で決定されていたこと
- ③ 生活習慣や宗教的背景で決定されていたこと
- ④ 政治・文化的な社会の構築で決定されていたこと

問四 傍線部イ「そのような状況下では、この先発企業に電気自動車を開発する誘因は弱い」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

キ

。

- ① 独占状態になるまで市場支配力を高めたことで、新たな技術を開発する能力が高まっているから。
- ② 技術革新を実現すると、これまで行ってきた設備投資、研究開発投資がむだになるから。
- ③ これまでに構築した連携体制から得られる予想利益が、新規投資にかかる費用を下回るから。
- ④ 独占利潤から得た資本力が、新しい技術開発への意欲を促す投資の利益を上回るから。

問五 傍線部ウ「これ」とは何か。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、ク。

- ① 生産・消費・流通体制に関する知識が豊富であること。
- ② 新技術採用のための費用が比較的少なく済むこと。
- ③ 遺失利益がなく先発企業を追い越そうとする意欲が強いこと。
- ④ 高い起業家精神と潤沢な資金力を有していること。

問六 傍線部エ「このような新しい制度インフラ」とあるが、どのような新しい制度インフラか。その説明として適切なもの

のを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ケ。

- ① 携帯電話やSIMカードを生産するためのインフラ。
- ② 先進国と全く同じものを、後発ならではの工夫で安価に実現したインフラ。
- ③ 携帯電話の普及に必要な電力供給ネットワーク整備を前提としたインフラ。
- ④ 電話線ネットワークも銀行制度も整備されていないことを前提としたインフラ。

問七 本文の内容と合致するものを、次の①～⑥の中から二つ選べ。順序は問わない。解答欄は、

コ	・	サ
---	---	---

。

- ① イギリスで世界最初の産業革命が起こる前は、経済が自然環境によって大きく制約を受けていたため、技術革新は起こらず、地域間での格差はそこまで大きくなかった。
- ② シュンペーターによると、技術革新とは、自ら進んで物事に取り組むという理念や目標を有した企業家が、新規の、もしくは既存の資金や組織、生産方法などを新しく結合させることである。
- ③ アローは、先発企業が市場に出すさらなる新製品によって、後発企業の競争意欲がかき立てられ、技術革新誘因の強さが増すことにより技術開発が成功すると主張している。
- ④ 他社の創造的破壊によって競争に負けてしまった企業でも、社会・生産・制度インフラが合理的に構築されていれば再起可能である。開発途上国が日本よりも高い携帯電話普及率を実現したことはその一例である。
- ⑤ 社会・生産基盤がすでに構築されているような成熟した市場では、新規参入企業にはチャンスがなく、ミスが許されない。新規参入企業にとって何より重要なことは、遺失利益を出さないことである。
- ⑥ 新しい技術は、既存の技術の下で構築された経済インフラや制度インフラの価値を無にすることがある。それは、業界をリードする先発企業にとっては大きなデメリットである。

第2問 次の文章を読んで、後の問（問一～問六）に答えよ。

(注¹) SNSで作動している最適化の(注²)アルゴリズムの背景には、どのような思想が潜んでいるのでしょうか。

おそらくそれは、「人間が好きなものには一定のパターンがあり、そのパターンを学習すれば、その人間の行動は予測できる」というものではないでしょうか。

そのような予測するには、膨大なデータベースが必要です。「私」の行動を予測するためには、まず、「私」以外の無数のユーザーが何を検索し、どんなサイトを閲覧し、何を買っているのかを把握しなければなりません。そのデータベースから、「ある特徴を持つユーザーがどんな行動をするのか」というパターンが分析されていきます。そして、そのパターンのなかに「私」を位置づけることで、「私」の行動を予測することがはじめて可能になるのです。

このような考え方は、非常に大きく言えば、世界を科学的に捉えようとする態度と通底するものです。科学は、この世界に起こる事象を法則に基づいて説明しようとしています。そこで理想とされるのは、すべての自然現象を説明することができるような、一般的な法則を解き明かすことです。そうした法則が解明されれば、これから起こるすべての自然現象は完全に予測可能になるでしょう。

気象予報をはじめとして、このような科学的な予測は、いまだ不確実性の残るものだとしても、私たちの日常生活にとつて欠かせないものになっています。しかし、科学的に説明された自然現象からは、個性が失われます。たとえば気象予報において、降雨の法則が完全に明らかになれば、今日降った雨の状況から、明日降る雨の状況を予測することができます。科学的に考えれば、降雨の法則に同じように従うという意味において、今日の雨と明日の雨にちがいはありません。

でも、私たちはそこにちがいを感ずることもできます。A、まったく同じ降水量だとしても、今日の雨はなんだか物悲しく感じ、寂しい気持ちにさせるけれど、次の日の雨は、なんだか傍そばに寄り添ってくれるような、親しみのある雨

になるかもしれませんが。B、今日の雨と次の日の雨はまったくちがったものになるかもしれませんが。雨にもそうした個性があるのです。C、雨を科学的に説明しようとした途端、そのちがいは失われてしまいます。雨は法則に還元され、そのときそのときの雨が持っている個性は見失われてしまうのです。

同じことが、アルゴリズムに基づく行動予測にもあてはまります。たとえば「私」はロック音楽が好きだとしましょう。しかし、同じ曲を聴いているときでも、今日聴いているときの気持ちと、明日聴いているときの気持ちは、まったくちがうかもしれません。ある曲を今までに百回、同じような気持ちで聴いていたのに、次の一回は今までとまったくちがった印象を受け、まったくちがう気持ちになるかもしれません。音楽を聴くという体験にも、一回一回の個性があるのです。それに対して、^イアルゴリズムによる行動予測は、そうした個性を無視することになってしまいます。

この問題を鋭く洞察した哲学者がいます。フランスの思想家、アンリ・ベルクソン（一八五九—一九四一）です。ベルクソンは、この世界をただ科学的にだけ説明しようとする考え方を痛烈に批判しました。彼によれば、そうした説明はこの世界を抽象的に眺めてなされるものであり、その具体的な姿を捉えることにはなりません。もちろんそれは、科学がちがっているとか、信頼に値しないとかいうことを意味するわけではありません。ただ、それだけでは捉えつくすことのできないものが、この世界にはある、と彼は考えたのです。

まず、この世界を抽象的に眺めることと、具体的に眺めることのちがいがどこにあるのかを考えてみましょう。さしあたりそれは、「未来を予見可能なものとして捉えるか、それとも予見不可能なものとして捉えるのか」というちがいで説明することができます。

たとえば、気象に関する科学的な知識やデータを動員すれば、「明日、雨が降る」ということを予測することはできません。このとき予測されているのは、いわば「抽象的な雨」です。つまり、いつ、どこで降る雨とも等価であり、同じような条件であれば同じように降る雨です。それに対して「具体的な雨」は、「私」にとって個性を持っています。そしてその個性は、科学的には予測することができません。明日降る雨の量を科学的に予測することはできません。しかし、それが

「私」にとってどのようなものとして経験されるのか、ということとは、事前に予測することはできないのです。

「ある出来事が予見不可能である」ということは、それが「偶然に起こる」ということです。つまり、それはそのように起こらないこともできるのに、そのように起こらなければならない理由などないのに、そのように起こってしまうということです。だからこそ、この世界をその具体的な姿において眺めたとき、世界は偶然の連続であるように見えます。次の瞬間に何が、どのように起こるかは、まったくわからないのです。

ベルクソンは、こうした偶然性を前提にしなければ説明できない現象が、この世界にはあると考えました。その例として挙げられるのが、生命の進化です。生命は同じ姿のままに留^{とど}まることなく、時間をかけて変化し、ときに信じられないような形態を獲得します。ベルクソンは、生命が時折見せるこうした偶然的な変化を、「創造的進化」と呼びます。

科学的な世界観に従うなら、生命の進化も含め、この世界で起こることはすべて何らかの法則に従っている、ということになるはずですが。しかし、現実の世界には、法則には還元できない、誰にも予測できないことが起こり、それによって新しいものが、それまでは思いつくことさえ不可能だったことが引き起こされるのです。

ベルクソンは、こうした予見不可能な創造的進化は、「私」をとり巻く外界の世界の事物だけではなく、「私」自身に関しても起こる、と考えていました。

たとえば、多くの人は、小学生のときの「私」も現在の「私」も、どちらも同じ「私」だ、と考えているでしょう。そのとき、その人はおそらく、「私」という変わることにない実体がまずあり、その実体が誕生から小学校時代などを経て現在までの、さまざまな状況を移ってきた、というふうに理解しているのではないのでしょうか。それはたとえて言えば、「私」を一つのボールとして捉え、そのボールの置かれる部屋が時につれて移っていく、しかし、同じボールであることに変わりはない、と考えることに似ています。

しかしこれは、「私」をただのモノのように捉える考え方であり、その意味で X 的な見方である、と言えます。それに対してベルクソンは、「人間はあくまでも生命であり、単なるモノではない」という点を強調します。そして生命で

ある以上、「私」もまた、予見不可能な創造的進化を遂げるのです。

もっとシンプルに言えば、このことは、明日の「私」がどんな人間かは、まだわからない、ということでもあります。明日の「私」が何者であるか、この世界をどのように感じ、どんな気持ちで生きるのかは、予測できません。時間の経過が私たちの存在を、常に新しいものに、別なものに変えていくからです。

しかしそれは、「私」が一瞬ごとに異なるバラバラな人格になる、ということではありません。確かに、昨日の「私」と今日の「私」、明日の「私」は、それぞれちがった存在です。しかし「私」は記憶によってその時間の経過を自分のなかに宿すことができる、とベルクソンは考えました。つまり、一瞬ごとに新しい存在である人間は、同時に、これまでの自分の歩みを「記憶」という形で保持し、それを更新しつづける存在でもある、ということです。ベルクソンは、そうした記憶に宿る時間のあり方を「持続」と呼んでいます。

SNSを支配する最適化のアルゴリズムは、このように生きる人間の具体的な時間を、正しく捉えることができません。なぜならアルゴリズムは、あるときに捉えた「私」のデータに基づいて、「私」はどんな場合にも同じ好みを持ち、同じものに関心を寄せ、これまで関心を寄せてきたものにこれからも関心を寄せつづけるだろう、という考えのもとに動作するからです。しかし、それは真実ではありません。私たちは、昨日まで関心があったことに、今日、関心がなくなるかもしれないし、あるいは今日関心がないことに、明日、突然関心を持つかもしれないからです。それこそが、生命の創造的進化にはかならないのです。

もっとも私は、こうした理由で、「SNSを支配するアルゴリズムによって、私たちは自分自身を創造する機会——つまり今までとは異なる、新しい存在になる機会を奪われている。だからSNSを使うのをやめよう」と言いたいわけではありません。私たちはこれから、アルゴリズムの提供する偶然性のない世界のなかで、これまでと同じような人と友達になるかもしれません。これまでと同じような動画を見て、同じような音楽を聴くのかもしれません。しかし大切なことは、その一回一回の体験は、それぞれちがっているということです。そして、「私」がどんな体験をするかは、実際にそ

それを体験するまではわかりません。そこには、アルゴリズムにも征服することのできない、生命の予見不可能性が、根本的な偶然性が潜んでいるからです。

(戸谷^{とやひろし}洋志著『SNSの哲学——リアルとオンラインのあいだ』に基づく)

(注) 1 SNS……ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service) の略。インターネットのネットワークを

通じて、人と人をつなぎ、コミュニケーションをはかれるようにするサービスのこと。

2 アルゴリズム……ある特定の問題を解いたり、課題を解決したりするための計算手順や処理手順のこと。

問一 傍線部ア「『私』とあるが、本文中のかぎかつこ付きの「私」は、誰を表しているか。最も適切なものを、次の

①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ア。

- ① 筆者自身
- ② SNSのユーザー一般
- ③ 主体性をもった特定の個人
- ④ 抽象化された人間

問二 空欄 A ～ C に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、イ。

- | | | | |
|---|--------|---------|---------|
| ① | A 仮に | B だから | C したがって |
| ② | A そして | B つまり | C それゆえ |
| ③ | A たとえば | B そのように | C それなのに |
| ④ | A つまり | B また | C しかも |

問三 傍線部イ「アルゴリズムによる行動予測は、そうした個性を無視する」とあるが、それはどういふことか。その説明

として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ウ。

- ① アルゴリズムによる行動予測では、ロック音楽に対する興味関心は聴いた楽曲の再生回数に反映されると見なされ、一人一人の利用者がどのような気持ちで聴いたかということは問題にされない。
- ② アルゴリズムによる行動予測では、ロック音楽に対する興味関心は人々が楽曲を選択する状況から明らかになるとされ、音楽を聴くという体験が持つかけがえのなさは問題にされない。
- ③ アルゴリズムによる行動予測では、ロック音楽に対する嗜好しこうを一つの楽曲の再生回数をもとにデータ化しているため、楽曲を聴いたユーザーの多様性や楽曲視聴時に抱く気持ちの差異は問題にされない。
- ④ アルゴリズムによる行動予測では、ロック音楽に対する嗜好を科学的な音楽視聴の法則に還元してしまつたため、今日聴いているときの気持ちと明日聴いているときの気持ちのような個人の内面の変化は問題にされない。

問四 空欄 に入る最も適切な言葉を、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、。

- ① 具体 ② 科学 ③ 偶然 ④ 創造

問五 この文章の構成についての説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、。

- ① 一つの話題について抽象的な内容と具体的な内容をそれぞれ取り上げた上で、両者を統合する新たな考え方を提示することで自分の考えにつなげようとしている。
- ② さきにした一般的な考え方に対して後で特殊な具体例を用いて反論することで、説得力を高めるとともに新たな話題へと論を発展させている。
- ③ 降雨の予想や生命の進化など似たような内容を繰り返し取り上げたり、「私」をボールになぞらえたりするなど、イメージ豊かな比喩を用いて自分の考えを印象づけている。
- ④ 予測できるものと予測できないもの、抽象的なものと具体的なものという対比について、身近な例や先行する研究を参照しながら論を展開している。

問六 本文の内容と合致するものを、次の①～⑦の中から二つ選べ。順序は問わない。解答欄は、

カ

・

キ

。

- ① SNSでは人間の行動を予測するために、膨大なデータベースを用いて「ある特徴を持つユーザーがどのような行動をするのか」というパターンを分析し、そのなかに人を分類・配置するという方法が用いられている。
- ② 降る雨によって私たちの受け取る感じ方は異なるのに、その感じ方の違いを科学的に説明することができないため、今日の気象予報はいまだに不確実性の残るものになっている。
- ③ ベルクソンは、世の中で起こる様々なできごとについて科学的に説明することを痛烈に批判し、予見不可能な創造的進化という考え方ですべての事象を捉え直すことの重要性を指摘した。
- ④ 気象に関する科学的な知識やデータを用いれば、同じ条件下では同じように雨が降ると予測できるが、雨の個性に関する知識やデータがなければ、人にどんな経験をもたらす雨かを予測することはできない。
- ⑤ ベルクソンは、世の中には科学的な法則ではなく偶然性を前提にしなければ説明できない現象があると考え、その例である生命の偶然的な変化を「創造的進化」と呼んだ。
- ⑥ 「私」という実体は時間とともに変化するが、それに気づけないのは、「私」たちが一瞬ごとに異なるバラバラなできごとを「記憶」として保持できていないからである。
- ⑦ 最適化のアルゴリズムが提供する偶然性のない世界では、私たちは自分自身を創造する機会を奪われてしまう危険性があるので、SNSの使用を控えるほうがよい。

第3問 次の各問（問一～問七）を読んで、それぞれの指示に従って答えよ。

問一 次のA～Eの傍線部のカタカナと、各群の①～④の傍線部のカタカナが同じ漢字となるものを、それぞれ一つ選

べ。解答欄は、A

ア

・B

イ

・C

ウ

・D

エ

・E

オ

。

A 提案にイ議のある人がいた。

B 道路のカイ修工事を行う。

① イ外に易しい問題だった。

① アンケートをカイ収する。

② イ細は後日知らせる。

② 私のカイ心の作である。

③ 問題はイ然として未解決のままだ。

③ 料金をカイ定する。

④ 今回の人事イ動で課長になった。

④ 警報をカイ除する。

C コウ生年金を受け取る。

D 乗り越し運賃をセイ算する。

① 景気がコウ転する。

① セイ力的に仕事をする。

② 入場コウ進の練習をする。

② トマトの促セイ栽培を始める。

③ 大会記録をコウ新した。

③ 原稿をセイ書する。

④ 日ごろのコウ意に感謝する。

④ 台風のセイ力が衰える。

E 事業で成功をオサめる。

① 後援会の会費をオサめる。

② 法をもつて国をオサめる。

③ 大会で好成绩をオサめる。

④ 大学で学問をオサめる。

問二 次のA～Eの各群において、漢字の読み方(カタカナ表記)が正しくないものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。解答欄は、A ・B ・C ・D ・E 。

- A
- ① 疾病(シツビョウ)
 - ② 市井(シセイ)
 - ③ 工面(クメン)
 - ④ 言質(ゲンチ)

- B
- ① 詮索(センサク)
 - ② 遊説(ユウゼツ)
 - ③ 更迭(コウテツ)
 - ④ 甚大(ジンダイ)

- C
- ① 率先(ソツセン)
 - ② 示唆(シサ)
 - ③ 匹敵(ヒツテキ)
 - ④ 哀惜(アイトウ)

- D
- ① 平生(ヘイゼイ)
 - ② 悪寒(アツカン)
 - ③ 素手(スデ)
 - ④ 所作(シヨサ)

- E
- ① 偏(カタヨ)り
 - ② 懇(ネンゴ)ろ
 - ③ 阻(コバ)む
 - ④ 緩(ユル)める

問三 次のA～Cの各群において、意味が類似している語句の組み合わせとして不適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。解答欄は、A ・ B ・ C 。

- A
- ① 一心不乱 | 一意専心
 - ② 針小棒大 | 空前絶後
 - ③ 我田引水 | 手前勝手
 - ④ 孤立無援 | 四面楚歌

- B
- ① 息巻く | いきり立つ
 - ② 追従を言う | おべつかを使う
 - ③ 手なずける | 手ぐすねを引く
 - ④ こと切れる | 息を引き取る

- C
- ① 厚かましい | ずうずうしい
 - ② にべもない | 素っ気ない
 - ③ のっぴきならない | 我慢ならない
 - ④ 名状しがたい | 筆舌に尽くしがたい

問四 次のA群・B群において、傍線部の仮名遣いが不適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、A ・ B 。

- A
- ① おおよそ理解している。
 - ② 大役をおおせつかる。
 - ③ おおむね順調だ。
 - ④ 路面のおおとつに気をつける。

- B
- ① 仕事に行きづまる。
 - ② 親からこづかいをもらう。
 - ③ 腹痛でうづくまる。
 - ④ つくづくあきれる。

問五 次のA～Dにおいて、一つ目の文の内容をふまえて故事成語を用いる場合、空欄に最もよく当てはまるものを、それ

ぞれ後の①～⑧の中から一つ選べ。解答欄は、A タ ・ B チ ・ C ツ ・ D テ。

A 弟の失敗はひとごとではない。 として自分の反省材料にしよう。

B 私はそんな疑われるようなことをしたくない。 だよ。

C この仕事を仕上げてから外国へ行くつもりです。 を残したくありませんから。

D 失敗を恐れているは何もできないよ。 と言うではないか。

① 背水の陣

② 画餅に帰す

③ 虎穴に入らずんば虎子を得ず

④ 他山の石

⑤ 肝胆相照らす

⑥ 三顧の礼

⑦ 後顧の憂い

⑧ 瓜田かでんに履くつを納いれず

問六 次のA～Dの傍線部の語句の使い方として不適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、A ト ・ B ナ ・ C ニ ・ D ヌ。

A むさぼる

① 休日は昼過ぎまで惰眠をむさぼる。

② 毎日小説をむさぼるように読んだ。

③ 品薄をいいことに暴利をむさぼる。

④ この一週間労力をむさぼり続けた。

B おざなり

① おざなりな返事をして叱られた。

② おざなりな日課として筋トレを欠かさない。

③ おざなりな言い訳をして、その場を逃れた。

④ おざなりな報告ではいけない。

C あわや

- ① あわや海外生活が十年に及んだ。
- ② あわや川で溺れるところだった。
- ③ あわや大惨事になるところだった。
- ④ あわや落選かと心配した。

D いささか

- ① この問題はいささか難しい。
- ② 真実かどうかはいささか疑わしい。
- ③ 茶道にはいささか心得がある。
- ④ いささかを進んだ先に展望台がある。

問七 次のA・Bにおいて、傍線部の漢字の意味が他と異なるものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、A ネ・B ノ。

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| A | ① 空 白 | ② 空 腹 | ③ 空 中 | ④ 空 洞 |
| B | ① 安 穩 | ② 安 直 | ③ 安 泰 | ④ 安 全 |

〔国語の問題は以上です〕